

～まちづくりのプラン実現に向けて大事なこと～

●伊賀市上野図書館のリニューアル ～新しい形の図書館で集客・交流の拠点づくり～

現在の図書館は **使いにくい!**

《市民アンケートでの意見(抜粋)》

- ゆったり本を読めない
- 子どもと一緒に行くのは気兼ねしてしまう
- 飲食・休憩したい
- 書庫にはたくさん本があるのに直接手に取れない
- グループ学習したい
- 駐車場が少ない

伊賀市新図書館
建設計画検討委員会
答申
(H26.2.11)

《新しい形の図書館》 ⇒ 快適で利用しやすく 賑わいや憩いの場

- ① 学習から起業支援へとつながる **“知の拠点”** 若者の定住促進
- ② 夜間や休日も人と人とを結びつける日常的な **“交流拠点”**
- ③ 伊賀の魅力を伝える **“発信拠点”**

例えば…
武雄市、伊万里市の図書館など

●芭蕉翁記念館のリニューアル

《現在の記念館》

- ・ 施設の老朽化 (昭和34年建設)
- ・ 収集、展示のスペース不足

史跡である現在地での整備は不可

新しい記念館は…
「新たな場所」
「新たな機能」
「単独で整備」

◆新記念館のイメージ◆

まちなか周遊の拠点化

生涯学習支援

芭蕉文学と俳句文芸の拠点化

学校教育連携

●公共施設最適化方針

次世代に誇れる持続可能な公共サービスの実現に向けて、公共施設マネジメントの原則 **「機能の複合化 (Remix)」** と **「運営の適正化 (Run)」** に基づき、公共施設の利活用を検討する必要があります。

Remix

⇒ 既存施設の活用を優先

Run

⇒ 運営改善による利用者の増加

複合施設

⇒ 集客交流の拠点
新たな賑わいを創出

●中心市街地活性化基本計画

(第2期計画の認定)

- ・ **第1期計画**
期間：H20.11～H26.10 (6年)
事業：56事業
- ・ **認定のメリット**
 - ① 国の重点的な「財政支援」
⇒ 市民の財政負担を減らす
 - ② 官民一体の計画づくり
⇒ 将来像の共有

平成28年3月認定を目指す

○伊賀市南庁舎の利活用

●南庁舎の建築的価値は？

伊賀市南庁舎は、北庁舎、中央公民館とともに、旧上野市における公共建築群の中心建物として完成されました。これらの建築は、わが国のモダニズム建築を戦前、戦後にわたってけん引した建築家・坂倉準三の設計によるものです。

南庁舎は、伊賀市にとって重要な建築であると同時に、わが国の建築文化資産として内外から高く評価されています。

●南庁舎の耐震は？

平成17年度に実施した耐震診断結果をもとに、専門家に検証を依頼したところ、一部耐震強度が低い箇所も有りますが、全体的に健全な状態にあり、適切に改修することで耐震補強や、防水機能の回復は可能であるとの報告がありました。

▼検証結果 (近代建築保存技術研究室及び三重県建設技術センターの検証結果から抜粋)

コンクリート強度	コア抜き調査 (9箇所) では、1箇所のみ劣化 (中性化) が進行していたが、全体としては良質なコンクリートである。
耐震強度	南面、北面の梁、屋上の床を支える梁の一部について耐震性が低いと診断されているが、鉄骨等で補強することで十分な強度は保たれる。
雨漏り	屋根の防水層を全面撤去し、新たにアスファルト防水を行えば雨漏りは止まると考えられる。

▼改修と新築のコストと工事期間の比較

南庁舎を改修*する場合、15.2億円～15.5億円程度の概算費用と10ヶ月～12ヶ月程度の工事期間を要すると試算されていますが、新築と比べて約10億円の費用と約1年間の工事期間を縮減することが可能です。

*過去実績を参考に、一般事務所に改修した場合

【お問い合わせ】

伊賀市産業振興部中心市街地推進課
TEL 0595-22-9825
FAX 0595-22-9628
E-mail:shigaichi@city.iga.lg.jp